

第6回 応用心理測定研究会

2023.2.11

# 学校規範の形成に対する 親の意識と小学生の意識



人間環境大学 看護学部 宮田 延実

- ・ 親は、わが子を社会規範が形成されるようにしつけるが、うまくしつけられないこともある。

- ・ 言いつけを無視したり，反抗したりすることもある。

- ・ 不適切な養育態度や発達特性に起因する問題もある

- ・ 従わせることだけが目的になると，体罰や虐待の恐れも

※ 親以外の者による、しつけ(働きかけ)の方が、社会規範はよりよく形成されることもあるのでは？

## 親のしつけと社会規範に関して

- ◆ しつけの量が多い家庭の児童の方が規範意識が高い (田中,1999)
- ◆ 領域特殊理論 (Turiel, 1998) による, 道徳, 慣習, 個人に分類された各領域において, 道徳と慣習の2領域だけが養育態度と関連する (崔・首藤,2005)
- ◆ 幼少期は親の教えるままに社会規範を内面化するが, 発達するにつれてモデリングによる社会規範を学習していく (木谷,2013)
- ◆ コミュニティ内の社会的なつながりの中で内面化していた可能性が高い (下條・廣瀬,2015)

# 学校は、社会規範を身につけるコミュニティの一つ

- ◆ 様々なルールは、基本的な生活習慣を確立、規範意識に基づいた行動様式の定着のため（文部科学省，2010）
- ◆ 「教育を受ける者が学校生活を営む上で必要な規律を重んずる」（教育基本法第6条）
- ◆ 「規範意識をはぐくみ社会の発展に寄与する態度を養うこと」（学校教育法第21条）



## <目的>

親が大切に思う**学校の社会規範**は、わが子も大切にできるようになるかを検討し、わが子に対する親の影響を明らかにする。

## <方法>

小学生とその保護者を対象に、学校に存在する主要ルールに限定して、親が大切に思う**学校規範**に対して、わが子はどの程度大切にしているかを調査し、これらの関係性を検討する。

## 調査対象者および手続き

1～6年の小学生367人の親子（長子を対象とした）

1年56名，2年59名，3年70名，4年56名，5年55名，6年71，合計367名。

男子187名，女子180名

このアンケートは，兄弟があるご家庭では，お子様一人ずつについてお答えください。

また，学校では，生活指導にも日々取り組んでいますが，指導の効果が少ない状況もあります。そこで，保護者の皆様の「しつけ」に関する考え方をお聞きし，学校教育の参考にしていきたいと考え，いくつかの設問を作成しました。これらは差し支えないところでお答えいただければと思います。お忙しいところ恐縮ですが，ご協力をお願いいたします。

# 保護者調査

1～6年の小学生367人の親（長子を対象として）

「とても大切にする」4点「まあまあ大切にする」「あまり大切にしていない」「大切と思わない」1点

- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 整頓    | 1 家の学習する環境(机やその周りなど)の整理整とん |
| 言葉遣い  | 2 正しい言葉づかいをすること            |
| 登校ルール | 3 登下校時に通学班の上下級生と協力すること     |
| 忘れ物   | 4 忘れ物をしないこと                |
| 思いやり  | 5 人に対して思いやりをもって接すること       |
| 不要品所持 | 6 学校に必要でない物を持ち込まないこと       |
| いいつけ  | 7 先生の話をよく聞くこと              |
| いじめ   | 8 いじめをしないこと                |
| 所持品記名 | 9 持ち物に名前を書くこと              |
| 反撃    | 10 相手にやられても、やり返さないこと       |
| 迷惑行為  | 11 人の迷惑にならないようにすること        |
| あいさつ  | 12 進んであいさつをすること            |
| マナー   | 13 人の物に許可なくさわらないこと         |

## 保護者の項目平均値とSD

	男子の親 (187)			女子の親 (180)	
1 家の学習する環境(机やその周りなど)の整理整頓	3.23	0.668	<	3.38	0.654*
2 正しい言葉づかいをすること	3.46	0.713		3.56	0.67
3 登下校時に通学班の上下級生と協力すること	3.32	0.857		3.37	0.762
4 忘れ物をしないこと	3.59	0.592		3.64	0.699
5 人に対して思いやりをもって接すること	3.8	0.597	<	3.95	0.219**
6 学校に必要でない物を持ち込まないこと	3.58	0.671		3.63	0.693
7 先生の話をよく聞くこと	3.78	0.571		3.84	0.581
8 いじめをしないこと	3.9	0.465		3.93	0.443
9 持ち物に名前を書くこと	3.24	0.725		3.28	0.757
10相手にやられても、やり返さないこと	3.05	1.19		3.1	1.178
11人の迷惑にならないようにすること	3.82	0.396		3.84	0.463
12進んであいさつをすること	3.7	0.621		3.73	0.624
13勝手に人の持ち物にさわらない	3.56	0.769		3.57	0.741

「とても大切に作る」4点、「まあまあ大切に作る」3点、「あまり大切にしていない」2点、「大切と思わない」1点



## 親 因子分析

## 集団規範

## 望ましい態度

## 学習ルール

5思いやり	0.81	0.04	-0.23
2言葉遣い	0.77	-0.12	0.15
3登校ルール	0.49	0.13	0.05
1整頓	0.46	-0.12	0.33
11迷惑行為	0.33	0.29	-0.11
10反撃	0.19	0.02	0.17
8いじめ	-0.17	0.84	-0.04
7いいつけ	0.12	0.58	0.06
12あいさつ	0.08	0.53	0.14
13マナー	0.16	0.45	0.03
6不要品所持	0.08	0.39	0.31
9所持品記名	-0.13	0.00	0.98
4忘れ物	0.06	0.12	0.58

# 子ども調査

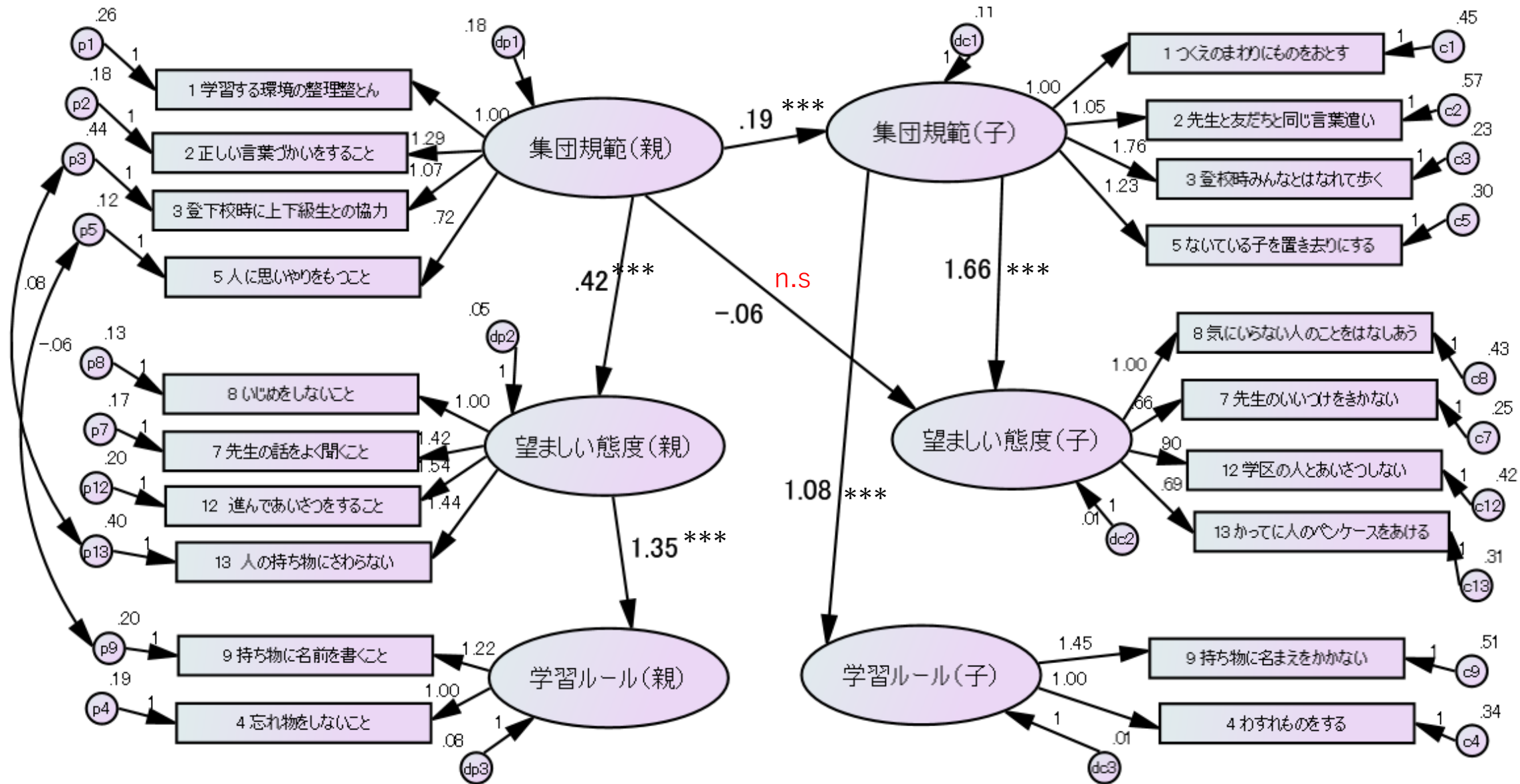
1～6年の小学生367人

「ぜったいしていけない」4点「しないほうがいい」3点「すこしならいい」2点「してもだいじょうぶ」1点

- |       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 整頓    | 1 つくえのまわりにじぶんのものがおちている          |
| 言葉遣い  | 2 先生に友だちとおなじことばで はなす            |
| 登校ルール | 3 分だんで学校にくるとき，みんなとはなれてあるく       |
| 忘れ物   | 4 わすれものをする                      |
| 思いやり  | 5 ないている人を見つけたとき，そのままにしてどこかへいく   |
| 不要品所持 | 6 学校におかしをもってくる                  |
| いいつけ  | 7 先生のいいつけをきかない                  |
| いじめ   | 8 友だちと気にいらぬ人のことをはなしあう           |
| 所持品記名 | 9 じぶんのもちものに名まえをかかない             |
| 反撃    | 10 だれかにたたかれたとき，やりかえす            |
| 迷惑行為  | 11 学校のつくえにらくがきをする               |
| あいさつ  | 12 ろうかで学区の人とすれちがったとき，そのままとおりすぎる |
| マナー   | 13 かってに友だちのペンケースをあける            |

わが子の項目平均値とSD	男子 (187)			女子 (180)		
1 つくえのまわりに じぶんのものが おちている	3.11	0.80	<	3.37	0.67**	
2 先生に 友だちとおなじことばで はなす	3.05	0.83		3.04	0.84n.s	
3 分だんで 学校にくるとき, みんなとはなれて あるく	3.28	0.84	<	3.49	0.66**	
4 わすれものをする	3.2	0.73	<	3.38	0.64*	
5 ないている人を見つけたとき, そのままにして どこかへいく	3.43	0.73	<	3.69	0.62***	
6 学校に おかしをもってくる	3.83	0.52		3.88	0.33n.s	
7 先生の いいつけを きかない	3.49	0.67	<	3.71	0.56**	
8 友だちと 気にいらない人のことを はなしあう	3.17	0.88	<	3.35	0.85*	
9 じぶんのもちものに 名まえを かかない	2.98	0.94	<	3.17	0.85*	
10 だれかに たたかれたとき, やりかえす	2.87	1.04	<	3.34	0.84***	
11 学校のつくえに らくがきをする	3.52	0.71		3.58	0.68n.s	
12 ろうかで学区の人とすれちがったとき, そのままとおりすぎる	3.07	0.90	<	3.31	0.72**	
13 かってに 友だちのペンケースを あける	3.54	0.74		3.63	0.63n.s	
14 ろうかをはしる	3.27	0.75	<	3.52	0.65**	
15 男のほうが 女より, えらいと言う	3.04	0.88	<	3.22	0.73*	

「ぜったいしていけない」4点、「しないほうがいい」3点、「すこしならいい」2点、「してもだいじょうぶ」1点



$\chi^2=285.818$   $df=162$   $P=.000$   $CFI=.941$   $AIC=381.818$   
 $RMSEA=.046$   
 $RMSEAHI=.054$   $RMSEALO=.037$

# 結果

「集団規範（親）」 → 「集団規範（子）」

「集団規範（子）」 → 「望ましい態度（子）」

「集団規範（子）」 → 「学習ルール（子）」

「集団規範（親）」 → 「望ましい態度（親）」

「望ましい態度（親）」 → 「学習ルール（親）」

- 親が大切にしたい、(整頓)(言葉遣い)(登校ルール)(思いやり)などの「集団規範」だけが、直接わが子の「集団規範」に直接影響を与えていた
- 親が大切にさせたいと思う(いじめ)(いいつけをきく)(あいさつ)(マナー)などの「望ましい態度」は、わが子に直接的な影響はなかった
- 親の大切にしたい「学習ルール」も、わが子に直接的影響はなかった
- 親自身の「集団規範」の意識が基盤となって、親自身のわが子に大切にさせたい「望ましい態度」や「学習ルール」の意識に影響を与えていたが、わが子には影響を与えない

## < 考察 >

親の直接介入は、「集団規範」に対してだけであり、「望ましい態度」や「学校ルール」に対しては、様々な学校での集団活動を通して形成されたり、わが子がモデルとなる他者に出会って形成されていくと考えられる。

- 子どもの集団規範は、親の影響を間接的に受けた集団規範が基盤となり、「望ましい態度」や「学校ルール」の形成していくと考えられる。学校では、教師の働きかけや集団活動の影響によって形成されていくのではないか。
- 親はすべての規範やルールをわが子に直接しつけようとしても、その働きかけには限界がある

さらに考えると

- (整頓)(言葉遣い)(登校ルール)(思いやり)などは、親がわが子の言動を目の当たりにするために、わが子に直接働きかけることが多い。そのため、ダイレクトに影響を与えていたのでは
  - 親が大切にさせたいと思っても、学校でのわが子の言動(いじめ)(いいつけをきく)(あいさつ)(マナー)は、親の目が届かないこともあり、直接介入する場面が少ない
  - 「学習ルール」では、記名は、年度当初は親が介入するだけで、忘れ物についても、日常的に親が知る場面は少ない
- 親が大切だと考えても、親の目が行き届かない規範については、直接的な影響を及ぼせないことも要因として考えられる



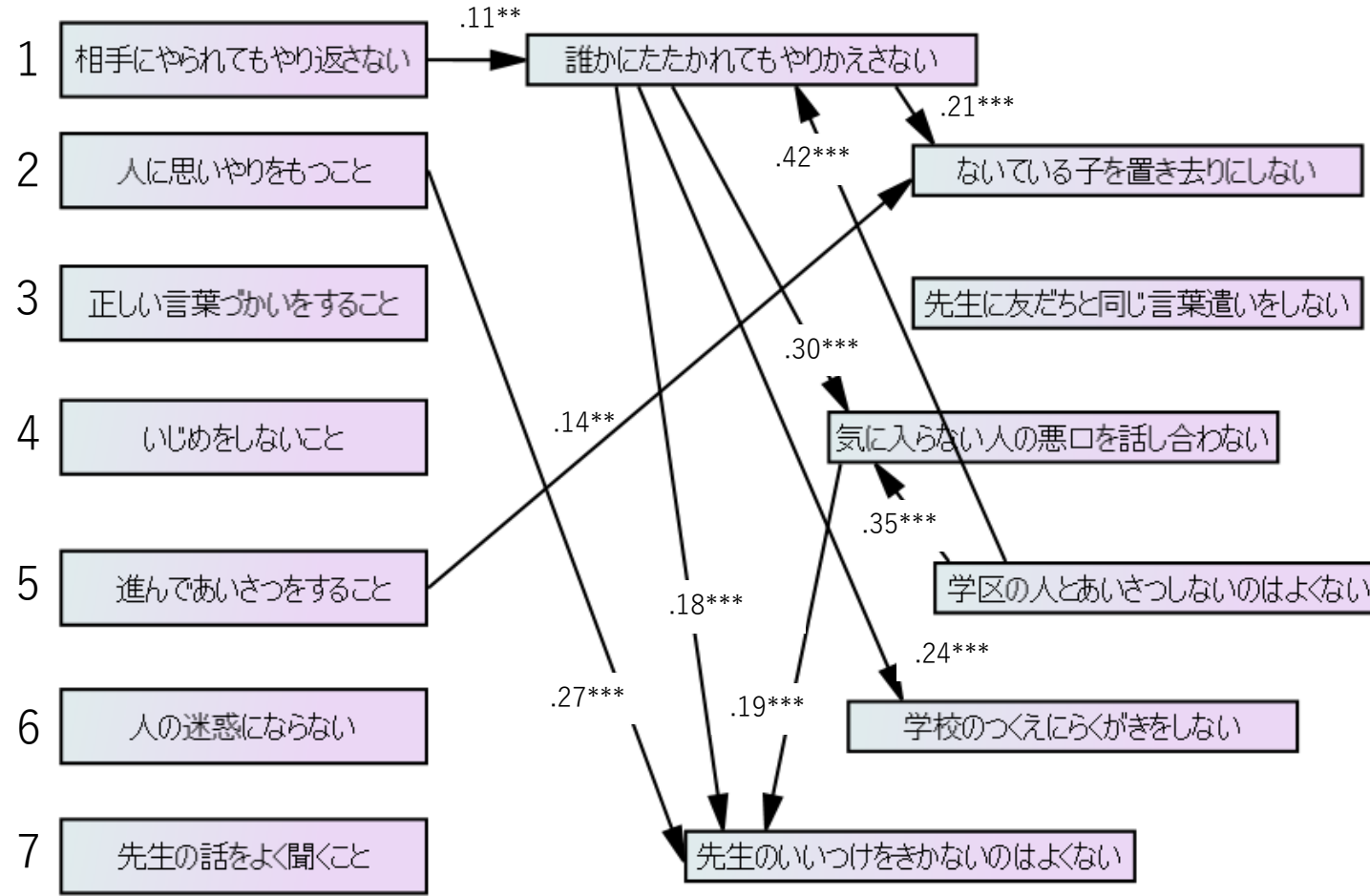
## おわりに

子どもは実生活での親や教師からの教えによって行為の良し悪しを学び、また、子ども同士ではいざこざとその解決の模索を通じて公正な関係のあり方を学び合い、社会的ルールの発達を促していくと考えられる。

しつけの量が多い家庭の児童の方が規範意識が高い(田中,1999)との主張もあるが、単に道徳的な知識の注入は使えないものになる。

また、例えば「初志貫徹」を大切にするしつけは、相手との歩み寄りをしない頑固な考え方を助長する恐れもある。

本研究では、親のしつけに関心をもって進めてきたが、親のさまざまな価値観、養育態度も子どもの社会規範の形成に何らかの影響があるものの、親が大切だと考えるしつけだけで、わが子の社会規範が形成されていないことは、妥当な結果であり、望ましい結果であった。



<親のしつけ>

<子どもの意識>